

# PIによる元川町交差点改良の計画案づくりについて

北海道開発局 留萌開発建設部 留萌開発事務所 維持課 千葉 隆広

## 1、目的

「元川町交差点」は、国道231号、232号、233号及び市道が交差しており、複雑な形状が要因となり追突を中心とした交通事故が多発している状況にある。そこで、交差点形状を改良することで事故対策を図ることとした。交差点改良を実施することにより、道路利用者や地域住民の生活環境に大きく影響することを考慮し、PIによる交差点改良の計画案策定を行った。

本報告では、この取り組みについて述べるものである。

## 2、PIによる計画案づくりの概要

本事業における計画案づくりの流れを図-1に示す。大きな流れとしては、始めに当該交差点の現状分析から対策案を検討した。これらを第1回懇談会にて提示し、意見や要望を収集した。これを踏まえて再度検討を行い、その結果を第2回懇談会にて提示した。この過程を経て対策案に対する合意形成を図った。また、懇談会の他にもホームページ(以下HP)上での情報公開やイベント会場におけるアンケート調査についても実施し、適宜検討を行った。

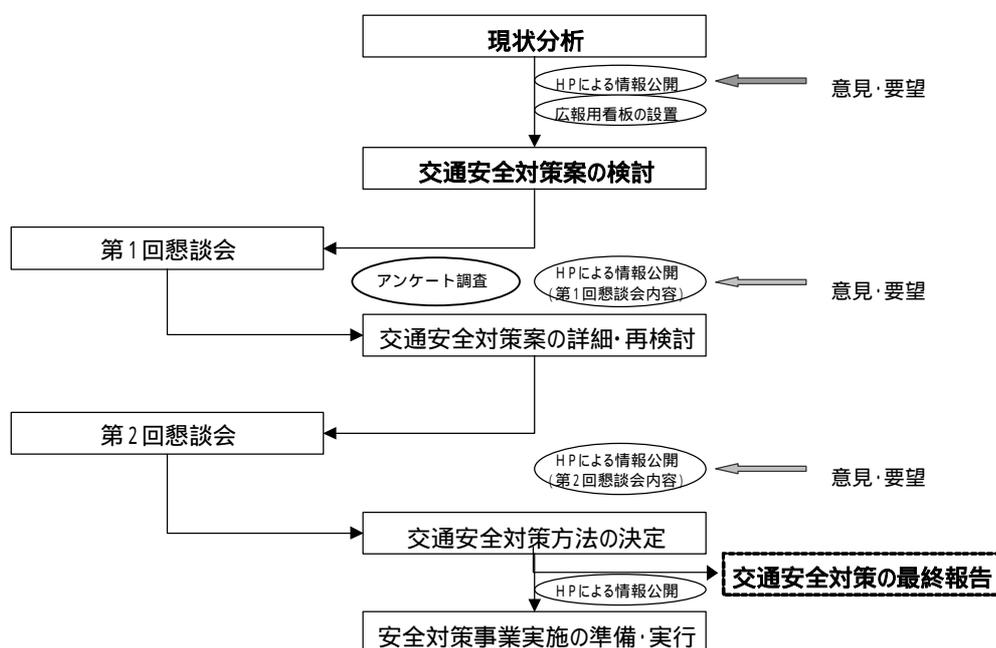


図-1 PIによる計画案策定の流れ

## 3、元川町交差点の現状と課題

当該交差点では、過去6年間(H8~H13)人身・物損事故合計で87件の交通事故が発生している。特に図-2中 箇所发生交通事故が集中しており、全体の約7割がこの箇所が発生している。この箇所における事故類型としては、追突事故が大部分を占めている。また、沿道の商業施設から出てくる車両との出会い頭衝突も多く発生している。(図-3)



図 - 2 交通事故の現状

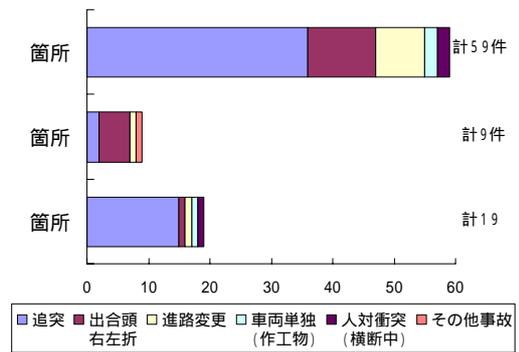


図 - 3 箇所別交通事故類型

このようなことから、当該交差点における交通安全上の課題を以下の3点に集約した。  
 交差点の形状が複雑であること。

信号をよく確認しない利用者が多いこと。(中には信号無視に至ってしまう場合もある。)

沿道商業施設の出入口が交差点内にあること。

これら課題を解決するため、交差点形状の変更を行うこととした。考えられた対策案は以下に示す3つの案である。(図 - 4 ~ 6)



図 - 4 第1案



図 - 5 第2案



図 - 6 第3案

どの案も現状の交差点よりもシンプルな形状にするために、最も流動の多い深川方面～増毛方面を軸としたT字交差点を基本とした案であり、第1案は市道早道通から国道233号深川方面に向かう交通の流れを確保するために一方通行としたものである。第2案と第3案については、市道早道通からの交通に対して信号制御を行うのが第2案であり、信号制御ではなく、一時停止とするのが第3案である。

以上のような現状分析から、これらの3案に対して道路利用者の意見を取り入れるため、懇談会への提示を行った。

4、第1回懇談会について

4.1、懇談会の概要

(1) 日時・場所

平成16年3月15日 18:00～19:30  
 留萌市保健福祉センター「はーとふる」



図 - 7 第1回懇談会の様子

## (2) 参加者

地域の代表として周辺町内会の住民、事業者としてバス会社・トラック協会・ハイヤー協会、自治体として留萌市及び教育委員会、交通管理者として留萌警察署、道路管理者として留萌開発建設部が参加した。

## (3) 目的

第1回の懇談会においては、検討した3案についての説明を行い、当該交差点における課題の検証と対策案に対する質問及び意見の収集を大きな目的とした。

## (4) 懇談会での主な意見

説明資料を事前に配布していたこともあり、参加者からは対策案に対する意見が数多く寄せられた。主な意見について以下に示す。

### 4.2、交差点形状及び対策案全般に関する意見

当該交差点については、現状の変則的な形状に違和感を持っている人が多かった。基本的には現況の複雑な交差点の改良は必要と考えており、対策案によって現状よりもシンプルになるため、効果が期待できるのではないかという考えの人が多数であった。

### 4.3、第2・3案に対する意見について

特に第2・3案についての評価が高く注目されたため、この2つの案に対する意見・要望が集中した。中でも運輸事業者を中心に、大型車の走行性の悪化、市道早道通りから交差点流入時のスムーズさ(交差点内の滞留車両による影響)について懸念していた。

### 4.4、懇談会のまとめ

第1回の懇談会では、当該交差点の課題について、事務局と地元住民などの道路利用者がほぼ同じ認識であることが確認できた。一方で、これらの案に対する課題も明らかになった。以下の点について第2回の懇談会に提示していくことが必要となった。

第2・3案におけるR233深川方面～市道早道通り留萌駅方面間の大型車の走行性

第2・3案における市道早道通の交通容量

## 5、アンケート調査について

平成16年9月5日(日)に開催されたイベント「留萌川祭り」会場にて、元川町交差点においてPIを導入して住民の意見を取り入れながら事業を進めることに関して、アンケート調査(138人)を行ったところ約9割の人々が良い取り組みとの評価を得た。また、当該交差点にける問題点についての質問に対しては、信号待ち時間、交通混雑、走行性に関する問題意識が高い結果となっており、次いで安全性に関するものとなった。

## 6、第2回懇談会について

### 6.1、懇談会の概要

#### (1) 日時・場所

平成16年9月30日 18:00~19:30

留萌市保健福祉センター「はーとふる」

#### (2) 参加者

参加者は、地域住民、事業者、自治体、交通管理者、道路管理者と第1回と同様の構成で行われた。



図 - 8 第1回懇談会の様子

### (3) 目的

第2回の懇談会では、第1回懇談会及びアンケート結果を踏まえた検討結果を提示し、その上で交差点形状の基本方針について合意形成を図ることを目的とした。

#### 6.2、懇談会での主な討議内容

第2・3案における大型車の走行性について

第2・3案における市道早道通とR233深川方面間の流動について、大型車の走行軌跡を作成して走行性について検討を行った結果、上下方向共に走行性に支障がないことが確認できた。

また、第1回懇談会で要望のあった箇所

の曲線半径を大きくすると共に(図-9)

、中央分離帯を設置して交差点内での交錯を防ぐことにより、大型車の走行に対してさらなる配慮を行った。

第2・3案における市道早道通のから交差点への流入について

第2・3案において市道早道通から交差点への流入について検討した結果、渋滞に対しては両案共に問題がないが、第3案の場合市道早道通からの流入が一時停止となるため、ピーク時間帯においては国道232号の滞留車両によって市道早道通からの流入が困難になる場合が発生することが明らかとなった。

#### 6.3、懇談会のまとめ

第2回懇談会では、上記の2つの項目を始めとして、第1回の懇談会において出された意見等に対する検討結果から、第2案に対して、地元住民の合意を得られた。しかし、信号現示を調整するなどして、待ち時間を少しでも短くして欲しいとの要望があり、信号現示については交差点形状の詳細が決定後、警察との協議の上調整を行っていくこととした。

#### 7、まとめと今後の課題

今回のPIにおいては交差点改良の計画案策定にあたり、2回の懇談会等を通じて様々な意見が出されたが、それぞれに十分な検討を行い、結果をわかりやすく提示することにより、地域住民・関係機関から合意形成を得ることができた。採択された第2案についてはHPで情報公開を行い、現在では計画段階から工事施工段階へと進行している。

また、今後の課題についてまとめると以下のようになる。

工事施工段階において、工事区間沿線の地先から新たな意見が出てきていることから、PIの経過や合意事項の地域住民への周知について、情報提供方法も含め改善の余地があると思われる。

地下歩道の利用促進やT字路化に伴って整備する残地(緑化等)の維持・管理について、ボランティアサポートプログラムの実施の検討等、地域住民との協同によるみちづくりへと発展させられる可能性について模索していくことも必要と考えられる。

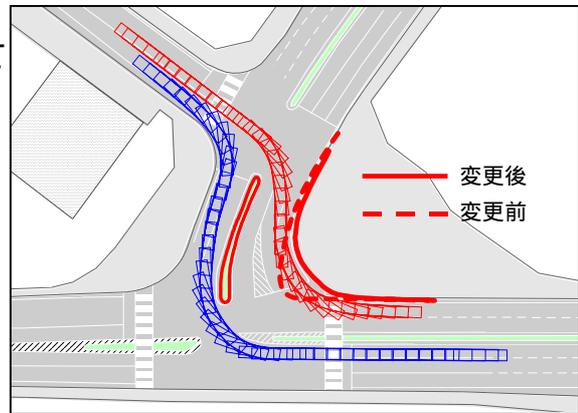


図-9 大型車の走行性に配慮した形状変更